

第32回 ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成24年5月31日（木）19時00分から21時00分
- 2 開催場所 新ごみ処理施設建設工事現場事務所 1階 会議室
- 3 委員出欠 出席11人
出席委員 大江宏(会長)、草苺正行、小林隆志、佐藤 壽、寺嶋均（副会長）、
時津直子、中澄子、藤生よし子、増田雅則、松井和夫
- 4 出席者
事務局 浜三昭、吉野弘巳、澤田忍、荻原正樹、佐藤昌一、奥山尚、田中實、
深井恭、飯高秀男、和田良英、飯泉研、竹内富士夫
J F Eエンジニアリング株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社
- 5 傍聴者 4人

【議事次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1) 第31回市民検討会議事録の確認
 - (2) 第20回、21回、22回ふじみ衛生組合地元協議会について
 - (3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について
- 4 協議事項
 - (1) 環境学習機能について（第3期まとめ）案
 - (2) （仮称）ふじみ環境学習推進員会議について
- 5 その他
- 6 閉会

【配布資料】

議事次第

- 【資料1】 第31回ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会 会議録（要旨）
- 【資料2】 環境学習機能について（第3期まとめ）案
- 【資料3】 （仮称）ふじみ環境学習推進員会議設置要綱（たたき台）

【会議録】

午後7時 開会

1 開会

【事務局挨拶】

【配布資料の確認】

2 会長あいさつ

【会長挨拶】

3 報告事項

(1) 第31回市民検討会議事録について

【事務局説明】

会 長 : 何か気づいた点はあるか。無いようであれば、公開の手続きをお願いしたい。

(2) 第20回、21回、22回ふじみ衛生組合地元協議会について

【事務局説明】

会 長 : 何か質問、意見はあるか

H委員 : 今、どのようなことを中心に話し合われているのか、概略を説明してほしい。

事務局 : 環境保全に関する協定書の中身について、具体的に議論が行われている。1点目はごみの広域処理に関する事、他の自治体からの広域支援の要請があった場合についての取り扱いについてである。2点目、環境測定及び調査、どのような測定項目をどのような方法で何回ぐらい測定していくのか、測定の項目や方法、回数についての協議。3点目、地域住民の健康被害の防止及び施設の運転の監視を行うための専門組織を設置してはどうか、といった協議。4点目、環境保全に関する協定書の有効期間について。以上のようなことを議論しているところである。

会 長 : いかがか。

- H委員 : 議論の進捗状況はどうか。
- 事務局 : 試運転開始時の10月くらいまでには環境保全に関する協定書を締結したいと考えている。試運転が10月1日。当初は、通電、電気を入れて、機械が一つ一つ順調に動くかどうか、そういった機械の点検。そしてその後、12月から実際に両市のごみを入れて、燃やす試験を行って、順調にいけば3月末までには引き渡しを受けることになる。
- 会長 : 他に何かあるか。
- C委員 : 他地域からのごみ処理の引き受けについて、今問題になっている東北のがれきを受け入れるかどうかという問題があると思う。これはいろいろと討議をする必要があるのではないかと。東京都は受け入れているが、各区市区町村が全部受け入れるのか、その辺のことは地元協議会か、あるいは市民検討会か、三鷹市の議会なのか、その辺の状況について聞きたい。
- 事務局 : ふじみ衛生組合の議会等でも議題になった。また、地元協議会でも同じ内容で情報提供をした。また、前回の市民検討会でも同じ形で報告している。現在の状況は、東京都全体で宮城県の女川町の災害廃棄物を受け入れる。23区の複数の清掃工場で、3月2日から順次受け入れがスタートしている。多摩地区については、受け入れ条件としては、発電施設を有する施設であること、バグフィルター等の設備が整っていることなどで、該当する施設は、現在、7施設である。ふじみも完成すれば、その条件に入るので、東京都全体のスキームの中での受け入れることになる。
- 多摩地区については、説明会が、7地区のうちの5地区で3月から5月にかけて行われた。ふじみについては、25年以降になると思われるが、まだ具体的な話は全く来ていない。

(3) ふじみ衛生組合新ごみ処理施設建設工事の進捗状況について

【事務局説明】

4 議題

(1) 環境学習機能について（第3期まとめ）案について

【事務局説明】

会 長 : 前回の素案から案となり、大枠、このような形でまとめとして提案できればよいと思う。何か特に意見はあるか。

B委員 : 一つは、3階のリサイクル品の展示について。まとめて展示するのも一つだが、通路の途中に展示を分散していくというのも効果的ではないか。もう一つは、パネルの数量と内容について、テーマごとにあるまとまりを持ってあえて限定的に展示するのがよい。パネルの間隔があると見やすいし、考えやすい。テーマは3Rの概念にまとめたらよいと考えている。また、3Rコーナーのほかに、石油と金属資源、地下資源についてのコーナーを設ける。

短時間で見学する人たちへ。イメージが持ちやすい展示方法にするため、パネルの数量は適宜。間隔をあける、各テーマの間にリサイクル品を置くなどし、そこでひとつイメージをチェンジさせる工夫が出来るのではないか。

会 長 : 貴重な意見である。事務局から何かあるか。

事務局 : 1点目のリサイクル品コーナーについては、固定するものではないと我々も考えている。展示パネルとの兼ね合いで考えていきたい。分散して置くという意見もいただいたので、その辺を含め、この後の議題になるが、新たにそういった具体的な設置物の内容を検討するチームの設置について提案をする。本市民検討会でいただいた貴重な意見を次につなげていきたいと考えている。2点目のパネルについて、テーマごとにまとめてということだが、そのとおりだと考えている。展示方法でも、テーマごとにコーナーを作成するというので、例として3Rコーナー、イベントコーナー、ごみの現状と将来の目標コーナー、ごみ処理フローコーナー、ごみ処理技術コーナー、生ごみリサイクルコーナー等々、例として挙げている。B委員より色々貴重な意見をいただいた。この次の議題、環境学習推進員会議のほうに引き継いでいきたいと考えている。

会 長 : ピクチャーレールが増設され、柔軟に展開していけるのではない

か。また、リサイクル品コーナー、実物展示、これも固定的ではないとのことなので、B委員の提案、具体的に今後、検討していいのではないか。

これをもって第3期のまとめにし、正副管理者へ提出したいと思うが、いかがか。

(2) (仮称) ふじみ環境学習推進員会議について

【事務局説明】

会 長 : 先ほど承認いただいた第3期のまとめとして、環境学習に関して皆さんから提案、意見をいただいている。来年3月の竣工に間に合うように、その中身を具体的に取りそろえていくことになる。この検討会で検討してきたことをゼロベースから始めるのではなくて継続的に具体化していけるチームが必要になってきたということである。事務局からの出たたたき台であるので、忌憚のない意見を出してほしい。

E委員 : 賛成である。これからはそれぞれ専門の方がきっちりと詰めていく段階である。そこで詰めた内容を市民検討会に報告をしてもらうというシステムがいいと思っている。

会 長 : この新しい会議の期間はいつまでか。

事務局 : 本市民検討会と同じく、任期は施設が竣工したときまでである。

D委員 : このこと自体には賛成なのだが、ちょっと聞きたいことがある。例えば、メインのプロダクツはDVDとかになると思われる。この委員がそこまでできるのかという問題もあるのではないかと。もっと専門家が必要ではないのか。その辺について、何か考えがあるのであればおしえてほしい。

事務局 : DVD等については、JFEからたたき台が出てくる。JFEは当然、自分のところで作るわけではなく、専門の業者さん等を通じてアイデアを持ってくると思われる。それを基本的にはたたいていただこうと考えている。要綱の、環境に関する学識経験者、この方については例えば小学生向けに本を出している方とか、ある程度、小学生の立場で、視点でいろいろ意見をいただける方を絡ませたい

と思っている。完全に白紙の状態から案を作り、こちらからJFEへ提案するとなると、もう少しメンバーを強化しないととも思うが、時間的なことも踏まえると、逆にJFE側からたたき台が示されると考えている。

D委員 : 何か業者を使わないとできないと思う。本検討会で議論した案もあるのだから、そういうものはしっかり伝えてほしい。また、DVDやパネルなども、時々刻々変わるものという認識である、特に私は、前にも言ったことがあるが、将来のごみ処理はどういう技術が出てくるというようなことにも目を光らせてほしいと考えているので、永続的にこの組織が何らかの形で、来年4月からも続けるようにしてほしい。

会 長 : 今、我々がここでたたいたのは、基本線で、これを踏まえたスペックというか、提案をしてもらうことがまず前提である。それと、構成について過不足、何か意見はあるか。この検討委員会からもう少しメンバーを出してほしいなど。

L委員 : 展示されたパネル、それを維持していく、または変えていくといった仕事は事務局がやるのか、それとも別のスタッフができるのか。

事務局 : 将来どうやって更新をかけていくかという視点だが、この市民検討会でも、できれば市民の力を使いたいという意見をたくさんいただいている。私ども職員が中心となるのではなく、意識の高い市民の皆様はその辺の仕事をお願いできればと考えている。

会 長 : この、新しくできる会の中で、そういった基本的なところも検討してよいのか。

事務局 : そうである。

会 長 : 所掌事項の(1)、(2)の中にそういうことも含めて考えていくということだと思う。

他に何かあるか。

要綱は、たたき台であるので、この先のプロセスはどういうふうになるのか。

事務局 : 本日の意見をもとにもう一度、要綱を修正し、決裁をとり、実際

に推薦を依頼したりという流れになる。期間が短いので、早目に第1回目の会議が開ければと思っている。会議は6時半または7時スタートを考えている。DVDやパネル、パンフレットなどの作成期間を考えると、月に1回程度開かないと間に合わないと思う。その辺のスケジュール管理をしながら来年の3月までに完成するよ進めていきたいと考えている。

会 長 : 市民検討会が14名の委員で構成されているので、9名ぐらいが機動性がある良いのではないかと。

他に何かあるか。

C委員 : DVDなど実際につくるのは事業者であり、事業者のほうから提供があったものを委員がチェック、提案するというような性格と理解してよいのか。

会 長 : そのとおりだと思う。我々のこの提案内容を踏まえて、JFEがまず、原案を準備してくる。それについて、意見を出していく。

事務局 : JFEが作成するのはDVDとパンフレット、それとパネルについては、JFEの関連するごみ処理技術の部分、ストーカ炉や発電に関しての部分である。残りの3Rや、将来のごみのあり方、そういったものはJFEではなくて、新しくできる推進会議でつくっていくことになる。今まで市民検討会の中でその骨格の部分は議論してきているので、それに枝葉をどんどんつけていき、作成していくことになるかと考えている。

E委員 : 今までの協議の中でかなり詳しく意見が出ていると思う。あくまでも業者中心ではなく、今までの議論を基に、足りない点を専門的に選ばれた方の意見を踏まえて今後議論していけばよいのではないかと。例えば、教育上の中でどうか、環境問題やこれからのごみ問題に対して先生方がどのように考えているかは大事である。そこで教育者の委員が1人入るのは良いと思う。

副会長 : これまで私もいろいろな清掃工場を見てきている。皆さんほんとうに一生懸命、展示や模型やDVDをつくってきている。そういう、いい事例はまねてもいいのではないかと。参考にしながら、それをさ

らにわかりやすく、あるいは工夫する。ごみに関しては、既にたくさん、展示物がある。それはそれで参考にすることは、決して悪いことではないと思う。

それ以外に市民検討会のまとめにある「ごみ問題だけでなく、地球環境問題や資源問題等幅広く学べる場とする」。ここまで広げた形での展示はあまり多くない。地球温暖化の問題、生物多様性の問題、あるいは酸性雨の問題などいろいろあると思う。先ほどB委員から石油の問題が出たが、そういう石油資源、将来的にどうなのかとか、金属資源もそんなに長い寿命がないという中で、金属のリサイクルが必要だとか、ごみの焼却熱をできるだけ効率よく回収して発電して、エネルギーを回収していくとか、ごみ問題と地球環境問題、資源問題とかなり絡み合っている。そういうことまで含めて広い視野から展示するということがあるといいのではないかと思う。

それから、調布市、三鷹市のごみ問題、それから、海外ではどうか、そういうものも含めてできるだけ視野を広げるような形でできれば、さすが、ふじみは違うという形で見てもらえるようなものになるのではないかと思う。

会 長 : 他に何かあるか。

それでは、専門的なチームをつくっていく、というこの会議体を設置することに了承いただけるか。名称はまだ仮称だが、かたい名称ではないほうがよいのでは。

事務局 : 名称は、会議よりはやわらかくチームとして、ふじみ環境学習推進チームでいかがか。

会 長 : 他に何かあるか。

C委員 : 環境問題とか、実際に展示物をつくるとか、それをDVD化するとか、プレゼンテーションの方法というのは、やはり技術がないとだめではないか。素人がやったのでは展示物にならないので、専門家がいないと困るのではないか、そこが問題ではないか。

会 長 : 環境学習は既に展開している東京都の例などもあるので、その辺の人に入ってもらってもよいかもしいない。専門家については、環

境に関する学識経験者を1人としているが、若干名ぐらいにする手もある。また、プレゼンは確かに大事である。展示して、見学者にどう伝えていくかというあたりのノウハウを持っている人は、すごく参考になると思う。その辺の構成についてはもう少し事務局のほうで検討してほしい。基本的な人数は増やさないで、今出てきたところをカバーできるような人選に努めるということではいかがか。

D委員 : C委員 のいうとおりだと思う。私もそれを心配していた。要綱案第8に「意見の聴取」というのがあり、必要があれば委員以外の者を会議に出席させられるとある。これを使えば臨時的に入ってもらえることができる。ある問題について専門家、あるいは映像関係の方の意見を聞くなど。第8をフルに活用したらいかがか。

会 長 : D委員 の、要綱案第8を生かして機動的に対応することも可能であるので、その辺も含めて基本的に了解いただけるか。

事務局 : C委員 、D委員 の意見を踏まえて、学識経験者の人選及び第8の、それ以外の方、アドバイザー的に出席いただくことの工夫をしたいと思う。

会 長 : 市民検討会からの委員はどのように選出するか。

事務局 : たたき台の方向性でよければ、ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会委員からの人選について、本会議終了後、若干、時間をいただきたい。

【委員多数より「賛成」の声あり。】

5 確認事項

【環境学習の参考DVD上映】

6 確認事項

【次回は、平成24年11月22日（木）の午後7時に開催】

7 閉会

午後9時00分散会